

鈴木五郎

✕
✕
✕

綿貫教授

同病院は習志野市泉野町にあり、京成大久保駅の近くで、以前は国立結核療養所であり、数年前



綿貫教授

来年三月をもって第一外科の總
貫重雄教授は定年退職されること
になった。外科の教育診療に、胆
石を中心とする消化器外科の研究
等に活躍されたことは御承知の通

Das Blut-

か何やらの講義で少々驚かされ、それがまた好奇心も手伝って生徒に感動を与え、一応やらねばならぬの自覚を持たせた様でもあった。時の経過と共に立派な先生が沢山居るものだと思う様にもなった。今日私は自分の学んだ基礎から臨床に及んで恩を廻らして見たいと思う。

をきれいに画く温厚な医学士となさる先生もいた。又東京帝国大学から大沢岳太郎教授、井上通夫教授等が来られ、特有な講義をきくことが出来た。西さんの講義はうけなかった。小池敬事、鈴木重武、森田秀一、野中俊郎等、諸教授は皆卒業後の関連である。森田名誉

りである。純粋の千葉子であり、現在でも千葉弁である。で、本学の名物教授として高名をさせている。また長く剣道部長、野球部長として多くの学生の面倒をみてこられた。退官は学の内外でおしまれているが、お元気なので今後の御活躍が御期待されている。

なお退官記念として来る三月中旬に最終講義、退官記念式典（期日未定）が医学部主催で行なわれる。第一外科部門を中心に退官記念会が近く発足すると聞いているが同会では純質教授退官記念業績集の発行、記念品贈呈等を計画中とのこと。

いる。あんなことで亡くなったのは惜しい。小池先生は學長もしたり或は戦時中は病院長もしたりで種々とお世話にもなり思出が多い。戦中東京の同愛病院を手業でやってはというので二人で上京し話し合いをしたこともあるが実現しなかった。皆格別の風格をもつ先生方であった。現在は福山、永野、大谷の三教授がある。

医化学は古くは戸石先生が教えたこともあるというのが私共は未吉雄治先生の講義を聞き、又河本禎助教授からも習った。太田という講師も見えたが実習は凡て須藤さんの本によった。この頃山崎蔵君が教室に助手（大学の助手とは別）として屢々何故と世話になっていた。学問の方は私には難かしいものと思った。河本先生が学生属

生理学は齋井卓造教授である。これより Das Blut 或は Blutkörperchen, Herztonen 等教えられるそれが例の Dandois が種本で聴診器の媒介により云々と独得の容姿と音声で格別な印象を残すものがあつた。解剖の田口先生も、酒井先生も医学博士、医学得業士という肩書があり、つまり第一高等学校医学部といった時代の卒業で先輩であつてみれば、学生に対する態度はきついものがあつても何か勉強の刺激ともなり而も親しみを感じた様でもあつた。酒井先生外遊中か、永井潜先生が来られたようだが、私は教わらない。但し先生著書で有名な「生命論」とか「医学と哲学との境」といったものを興味を以て読んだものである。酒井先生の後は鈴木正夫教授となる。正夫さんは面倒な時間割を組んだりし、我々は只、与えられた時間だけ講義をするという風で伊藤君は種々と関係も深かつたと思う。学問は難かしくてよく分らぬが、現教授の本間君からの易しい話をきいたりし

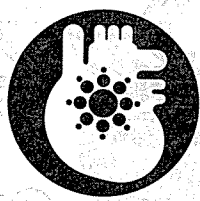
術部をつくつてくれ志望野の騎兵学校や、四街道の砲兵学校等へ連れて行かれ、乗馬といふものの快味をさつかったことが今日まできまつてゐる。

本格的な学問は赤松茂教授になつてからと思う。赤松先生とは謡曲で懇意に願つた。内科の堂野前、泌尿器の黒田、法医の加賀谷、牛理の鈴木、衛生の谷川等諸教授と共に福岡周斎という喜多流地謡の大家について比較的热心に謡曲を習つたのであるが、私は茲に各先生方の性格或は大げさに言へば学問に対する姿勢が窺えるような質問に対する姿勢が窺えるようなものである。現在の教室には三浦、橋岡教授が居る。

薬物学は何を誰に習つたかよく覚えていないが京大の薬物教室で仕事をしたという長町穆という先輩から処方箋の書き方等を教えられた。この先生は外科医であり千葉へ早くレントゲンを入れたが今日吾々が腸間鎖症の診断に行なう単純撮影をする方法を夙に公表していることを塩田重眞先生

(四回へつゞ)

●藥価



イリダメン[®] 錠・注
(塩酸オキシフェドリン)

中外製薬株式会社 東京都中央区京橋2-2

から注意されたことがある。本格的な薬物は福田得志教授からと思う。私はこの先生の講義はきかなかったが、医学雑誌のことなどで関係もあったし、殊に最も記憶に残るのは先生の飼犬の難産の時大事件のように心配して寒中だったが、夜間に毛布で包み病院へ抱いて来られ、私がカイザーで出たことである。あの美青年の顔貌、容姿は格別なものがあった。第二回生の貫文三郎君を助教授におき九州へ連れて行かれたことは皆の知る所である。そうして次は林多之助教授だがこの先生は痔核があるのに馬術部長を引受けたようだったが、馬に乗ったのを見ない。顔面神経麻痺があった様子である。この後が小林竜男君だが既に名譽教授である。門下に村山君や萩原君がある。

法医学も私共のときは充分でなかった。京大出身の高田義一郎という先生の講義はきいたがこの先生は間もなく面白くなく辞められた。私は法医学の習得で精神科に居た木村直樹という先輩に連れられ現地に赴いて解剖にたずさわったことが唯一の法医学解剖経験である。

立派な法医学教室は加賀谷勇之助教授からである。同窓会問題に熱心な友永得郎君が居りこの人は後長崎大へ教授として転出して、宮内君も既に名譽教授、今は木村康君の時代である。後進の連綿と栄えるのはうれしい。加賀谷先生は足（正しくは下股）が短いの馬術部長として堂々と馬に乗ったこともある。（以下次号）

昭和二十六年度医専卒業生の集い

「八千会 ニュース」

五月十二日（土）、テレビでお馴染みの関西有馬温泉「暖風閣」が同窓会会場として選ばれたことに、幹事の温い知恵がありました。これを理解して頂くためには、八千会（破産会）の歴史的事情をもう一度思い出して頂かなければなりません。昭和二十六年八回生として卒業した私たちの仲間の中には、実は昭和十九年の戦時中に入学生し、終戦と同時に母校を失った日本各地、あるいは外地から引揚げてきた面々が、奇しくも落着いた全国からの集りなのです。終戦を中にはさんで、あの苦しい時代、六年間の医学教育を受け、卒業した仲間といってもいいでしょう。

第一回 放射線科同門会

四月廿一日の目曜日に、千歳つくのである。これらの先輩を薬ランドホテルにおいて第一回目の放射線科同門会が開かれた。昭和廿九年千葉大学医学部に寛弘毅教授を迎えて放射線医学教室が設けられてからすでに十九年が過ぎている。この間に小さな世帯ながらも当教室に所属した医師、技師、看護婦および物理や生物のバリエーションが豊富になった。当教室から育っていった人材は、現在放射線医学の各分野で広く活躍中である。同窓の早期診断の權威、市川平三郎（現国立がんセンター部長）、リニックス、ベータトロンを駆使して現在癌の放射線療法分野ではナンバーワンの梅垣洋一郎（現放射線医学総合研究所部長）、そして日本の核医学（アイソトープ）診療の開拓者であり現在を活躍中の寛弘毅教授とこの三人をあげると、千葉大学は現代日本の放射線医学界の指導的にある人々を輩出していることに（内山曉記）



四十四名、死亡一名の同窓生が、まず会計報告の承認、全日本全国、沖縄、北海道各地で活躍しているのが実状なのです。今回、関西を会場として選んだ幹事の思いやりに、事実卒業以来はじめて参加した同窓生三名（大阪、四国、九州）が与えられ、僅か十四名の出席という淋しさを充分補って余りある、極めて感銘深い会となりました。

行儀のわるいのが定評の医師の集りが、綺麗ごとを全く手もちぶさたに中する程、積もる思い出、活躍話に熱中し、大衆行儀のよいしい、しかしながら男同志の集りでした。難波で母船を失った者同志が、戦い抜き、生き抜いて行けた過去の出来事を語り合い、励まし合いました。

総会は、万年名幹事大田兄のリードで、まず会計報告の承認、全日本全国、沖縄、北海道各地で活躍しているのが実状なのです。今回、関西を会場として選んだ幹事の思いやりに、事実卒業以来はじめて参加した同窓生三名（大阪、四国、九州）が与えられ、僅か十四名の出席という淋しさを充分補って余りある、極めて感銘深い会となりました。

行儀のわるいのが定評の医師の集りが、綺麗ごとを全く手もちぶさたに中する程、積もる思い出、活躍話に熱中し、大衆行儀のよいしい、しかしながら男同志の集りでした。難波で母船を失った者同志が、戦い抜き、生き抜いて行けた過去の出来事を語り合い、励まし合いました。

総会は、万年名幹事大田兄のリードで、まず会計報告の承認、全日本全国、沖縄、北海道各地で活躍しているのが実状なのです。今回、関西を会場として選んだ幹事の思いやりに、事実卒業以来はじめて参加した同窓生三名（大阪、四国、九州）が与えられ、僅か十四名の出席という淋しさを充分補って余りある、極めて感銘深い会となりました。

あとがき

◇何時もながら会報発行のころになると何やかやと雑用がとびこんで来て、頭の中がテンヤワンヤとなります。前々から準備をしておけばと思いますが、仲々思うようには原稿が集らず、穴埋めに何かないかと探しまわった末です。今回からはこれに懲りて第二、第四金曜日を定例編集会議と致しました。支那より、写真、随筆、クラス会等の原稿は常時受け付けておきます。ご協力をお願い致します。

◇筑波大学、静岡医科大学の人事も今や選挙の最中です。次号には本学からの進出も紹介出来ると思います。茨城支部、静岡支部の会員の皆様のご期待にそえるかどうか？

◇長い間編集委員として会報発行にご協力をいただいた本学第二解剖・白井助教授は、九月一日付で山形医科大学教授として就任されました。長い間のご協力を感謝致します。

◇御園生教授、押田徳郎名誉委員が逝去されました。関連記事は本号二面に掲載致しましたが、編集委員会として、ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り致します。

印刷所 新柳印刷株式会社
千葉市葛城一八八一
電話千葉〇四七二四六六一

■健保適用

国産で初めての
セファロスポリン系抗生物質



新合成セファロスポリン
セファジン®
筋注用 / 注射用

〈包装〉セファメジン筋注用（無痛性溶解液添付）
0.25g（力価）、0.5g（力価）
セファメジン注射用 0.25g（力価）
0.5g（力価） 1g（力価）

藤沢薬品

大坂市東区道修町4丁目3
（東京・名古屋・広島・福岡・札幌・仙台）

使用上の注意は製品添付文書参照のこと